

ロシアの作曲家と故郷

ーラフマニノフ、プロコフィエフ、ショスタコーヴィチー
サイモン・モリソン教授とともに

ウクライナとの戦争が続き「ロシア」の歴史や文化が問い直されている今、
20世紀を生きたラフマニノフ、プロコフィエフ、ショスタコーヴィチの「故郷」との関係性を、
プリンストン大学音楽学部のサイモン・モリソン教授とともに再考する。

講演者

菊間史織（尚美学園大学・兼任講師）

故郷と異郷の間：プロコフィエフの場合

神竹貴重子（一橋大学経済研究所ロシア研究センター・研究機関研究員）

古儀式派のロシア音楽観：ボガテンコによるラフマニノフ批評

Simon Morrison（プリンストン大学音楽学部・教授）

マルガリータと巨匠：ショスタコーヴィチの二番目の結婚、コムソモール、雪解け

司会：菊間史織

Photo by Kieko Kamitake, Kizhi Island in 2011

開催日時

2026年 1月 7日（水） 16:30～19:00

会場

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター
4 階大会議室（403） / オンライン

オンライン参加登録 URL

https://us02web.zoom.us/meeting/register/uwQ_8sEsRSCGp3dfbgKMTg



使用言語：日本語・英語

※質疑応答には通訳がつきます。

主催

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」
（共同研究班：スラブ・ユーラシア地域の文化・言語）

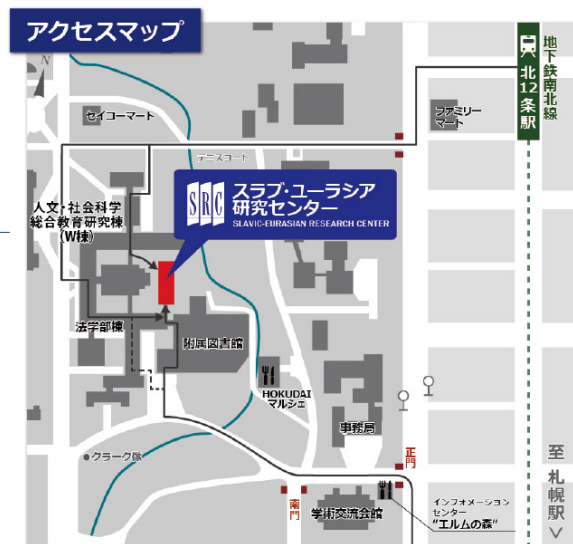
共催

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

「国際的な生存戦略研究プラットフォームの構築」（SRCW）

後援

日本音楽学会



※駐車場はありません。公共交通機関でお越し下さい。

問い合わせ先：adaisuke@slav.hokudai.ac.jp（担当：安達大輔）

